

科目名	開発政策論特殊研究	担当者	イケガミ キョコ 池上 清子	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>国際化・グローバル化を特質とする現代において、国際情勢の帰趨と世界の中の日本のあり方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち、経営・経済・政治・行政・国際関係・言論等の分野で指導的、先端的な役割を演ずる人材を育てるといふ国際情報専攻の大目的に沿った科目である。国際社会の現実的動態、国際社会と日本との関連等に関する学問的認識を得ることを目的とする。</p> <p>先行研究などの情報検索方法や自分の考えを構築することを含めて自律的な研究遂行能力を習得し、さらに、変化する社会環境や多様な価値観を読み解き、正当な批判と評価を行う判断力を養う。</p>		
到達目標	<p>1) 国際社会が推し進めてきた「人権」の思想が、どのような形で、21世紀の最大課題である開発の推進・開発援助と結びつくのかを確認する。開発分野の大枠として持続可能な開発目標（SDGs）があるが、その特徴の一つである人権の概念を、人口と開発の視点を捉えなおす。</p> <p>2) 法律の枠組みから人権の歴史、制度、概念を再確認する。さらに、開発途上国の現状を把握し課題を理解したうえで、人権の配慮が最も必要な、社会的弱者または社会の周辺に追いやられた状態の人たち（移民、難民、女性、子どもなど）に対する政策に関して、具体的に考察する。</p>		
学修方法	<p>レポートを通じた学修は、レポート課題に沿って作成し、manabaを通じて教員のコメントなどを参考に修正を重ねて、最終版としてまとめた後、最終版として改めてmanabaに提出する。教員とのやり取りは、manabaを通じたコミュニケーションを前提とする。</p> <p>新しい情報を常に入手することが重要となるので、関連するWebsiteや新聞記事などの分析は欠かせない。そのため、日常からの情報収集にも配慮する。特にSDGs関連の論文は少ないことに留意。</p> <p>具体的には、教材や参考図書を読み込むこと、それらを吸収したうえで、人権関連の諸問題を再考し、レポートの課題に対する自分の考え方をまとめる。</p>		
スケジュール	<p>前期レポートは9月中旬、後期レポートは1月中旬となっている。従って、以下のようなスケジュールが目安として考えられる。</p> <p>前期： 教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期： 教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も翌年1月課題提出締切日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>課題に沿った論理構築がなされているか。</p> <p>5,000-6,000字数で、自分の意見をまとめられているか。</p> <p>十分に教材を読み込んでいるかどうか。</p> <p>参考文献、先行研究などの情報検索が十分かどうか。</p> <p>脚注などレポート作成に必要な情報が正確に含まれているか。</p>
	平常評価	20%	<p>manabaを通して示されたコメントに関する修正度合。</p> <p>毎回、修正部分を赤字にして提出しているかどうかを含む。</p>
履修者への要望	<p>成績の評価基準にも記したように、論理的であることと自分の意見をまとめることを主眼としているので、どんな小さな点でも構わないので、自分の考えや気づきを大切に、レポートを書いていただきたい。できれば、身近なところから始めて、グローバルとのつながり・共通課題を推測するプロセスを踏んでいただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 阿藤誠・佐藤龍三郎編著 教材名： 『世界の人口開発問題』（原書房，2012年）ISBN:978-4-56-209188-1 3,200円+税
	人口開発問題の近年の課題であるエイズの蔓延，出生力転換の成功に起因した世界的高齢化の進行，超少子化現象，都市化などにふれながら，リプロダクティブ・ヘルス/ライツ重視へのパラダイム転換では，男女平等・人権尊重の世界的潮流にも言及する。それは，家族計画を人口抑制から，女性にとっての幅広い保健医療サービスとして位置づけた点としての評価につながる。世界人口と食糧・資源・環境・貧困問題との関係を取り上げて，新たな認識枠組みを提起した書籍である。
参考図書	辻村みよ子・河上正二・水野紀子編，ジェンダー法・政策研究叢書第12『男女共同参画のためにー政策提言』（東北大学出版会，2009年）ISBN:978-4-86-163073-6 2,200円+税
履修上のポイント	「人権」の思想が，どのような形で，21世紀の最大課題でもある開発の推進・開発援助と結びつくのかを確認する。開発分野の大枠として持続可能な開発目標（SDGs）があるが，その特徴の一つである人権の概念を，人口と開発の視点として捉えなおす。人権や格差の問題は，途上国だけではなく，日本にも存在することにも言及すること。
レポート課題 1	人権思想が開発に及ぼした影響として，格差の問題がある。この格差是正の必要性を，開発と人権の両面から論じ，さらに，持続可能な開発目標の開発枠組みにおける課題を想定する。 留意点： まだ，新しい枠組みである SDGs について情報を収集するには，国連関連の Website が参考になる。
レポート課題 2	開発政策の策定プロセスでは，人口の半分を占めるにも関わらず女性の声が届きにくいとの意見がある。ジェンダーの視点から，その原因を分析し，男女平等の概念が活かされる仕組み，配慮，教育などを考慮して，開発途上国政府に対する開発政策の策定に必要な配慮，施策を議論する。 留意点： 日本でもジェンダーの問題があることを認識する。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 横田洋三編 教材名： 『国際社会と法』（有斐閣，2010年）ISBN:978-4-64-104652-8 2,800円+税
	国際社会の枠組みが大きく変動しつつある現在，国際法，国際人権法，国際経済法の役割も変容しつつある。それらをバランスよくカバーした本。人権・テロ・海賊・温暖化など新たな国際問題を法的に考え議論する。
参考図書	山本正・伊藤聡子編『迫りくる東アジアのエイズ危機』（連合出版，2007年）ISBN:978-4-89-772220-7 2,500円+税 堂本暁子・天野恵子『医療革命 性差医療が日本を変える』（中央法規，2009年）ISBN:978-4-80-584862-3 2,200円+税
履修上のポイント	法律の枠組みから人権の歴史，制度，概念を再確認する。さらに，開発途上国の現状を把握し課題を理解したうえで，人権の配慮が最も必要な，社会的弱者（移民，難民，女性，子どもなどの中で，女性に着目）に対する政策に関して，具体的に考察する。
レポート課題 1	開発途上国の人口政策において，人権に配慮した政策とは何かを論じる。個人の自己決定権に関して，リプロダクティブ・ライツに着目すること。 留意点： 政治的な価値観と人権の保障とが相いれない場合が，リプロダクティブ・ライツの領域にはあることを理解する。
レポート課題 2	限られた予算や人材の下，開発途上国が，HIV感染者・エイズ患者の人権を保障する政策について，具体的に議論し提案する。 留意点： WHO（世界保健機関）やUNAIDS（国連エイズ合同計画）の年次報告書に掲載されている，最新の感染のトレンドや課題を分析すること。